

拡がった。翌2日、9時30分～10時には消失を確認した。

3・3 10月16日～10月18日の青潮

10月16日に千葉中央港内と幕張沖から船橋航路、船橋港内にかけて青潮を確認した。16日には幕張沖の変色域は幕張沿岸から3km程度であったが、17日には沿岸から4km程度に拡大し、さらに浦安沿岸でも発生した。18日には茜浜沖、浦安沿岸では消失し、船橋航路付近の変色域も薄くなっていたが、千葉中央港内、船橋港内では継続していた。この青潮は19日には消失した。

16日の船橋港内の水質鉛直プロファイルを図3に示す。溶存酸素は表層から0.4mg/L未満であったが、酸化還元電位は表層ではプラスの値を示し、4.2m付近でマイナスに転じた。水温は表層から下層までほとんど変化していなかった。同じ地点の9月3日の青潮時の鉛直プロファイル(図2)と比べると、水温躍層が存在せず、海水がほとんど完全に上下に混合していることがわかる。

3・4 局所規模の青潮

上記の青潮の他に、9月25日に船橋港内で海水の

変色が観測されたが、継続時間も短く、局所的であった。

4 まとめ

2007年の青潮発生回数は3回であった。漁業被害の報告はない。

謝 辞

本調査は千葉県環境研究センターと千葉県環境生活部水質保全課との共同調査であり、ご協力いただいた関係各位に深く感謝します。

文献

- 1) 飯村晃, 小林広茂, 小倉久子: 東京湾の青潮発生状況(2006年), 千葉県環境研究センター年報第6号, 130-131(2008)

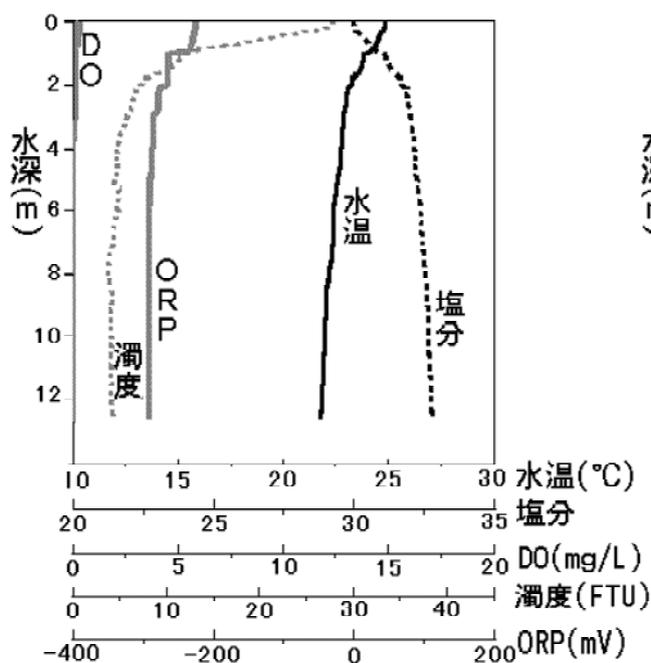


図2 9月3日船橋港の水質鉛直プロファイル

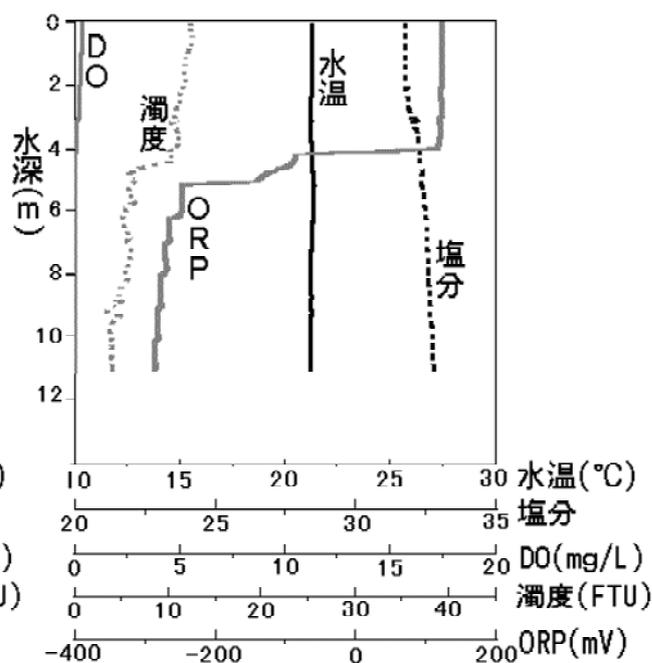


図3 10月16日船橋港の水質鉛直プロファイル